



e-La Voz
「エー・ラ・ボス」と読みます

HCJB『アンデスの声』
日本語放送
メールマガジン
(第33号)

2005年9月8日発行

HCJB「アンデスの声」

リスナーの集いのご案内

大阪会場：「太閤園」レストラン

日時：9月22日(木)正午よりバイキング式昼食(HCJBアダムス夫妻列席)
場所：大阪府大阪市都島区綱島町9-10
JR大阪環状線京橋駅で東西線に乗り換え、大阪城北詰駅下車徒歩1分
地図：http://www.taiko-en.com/access_map/index.html
電話：06-6356-1110(代)

東京会場：<光と水と緑の教会堂> 淀橋教会

日時：9月25日(日)午前10時半より主日礼拝(説教者：尾崎一夫)
午後1時より「アンデスの声」リスナーの集い(HCJBアダムス夫妻列席)
場所：東京都新宿区百人町1-17-8
JR中央線大久保駅より徒歩1分、JR山手線新大久保駅より徒歩3分
地図：<http://www.yodobashi-church.com/traffic.html>
電話：03-3368-9165(代)

北九州会場：リーガロイヤルホテル2階「コルベーユ」

日時：9月27日(火)正午より昼食(出席は尾崎のみ)
場所：福岡県北九州市小倉北区浅野2-14-2
JR小倉駅新幹線北口より空中回廊で直結徒歩1分
地図：<http://www.rihga-kokura.co.jp/map/index.html>
電話：093-531-1121(代)

HCJB日本語放送再スタートを歓迎してリスナーの皆様から次のようなお便りが寄せられました。(順序不同 敬称略)

オーストラリアからの日本語放送再開のニュース、非常にうれしく読ませていただきました。
インターネット時代とはいえ、はるばる海の向こうから電波がやつてくることを実感させられる短波放送はいつ聴いても感動させられます。有り難いことです。(正宗淳)

長野県三郷村では、朝晩の風、虫の鳴き声、木々の様子をみても秋がそこまで来ているかのようです。そんななか、HCJBの朗報が飛び込んできました。オーストラリアから日本語放送が始まるということですが本当ですか。お返事待っています。(斎藤弘一)

オーストラリアからの日本語短波放送開始のニュースは大変うれしいニュースです。ハムフェアで早速案内させていただきました。25日の東京淀橋教会での集いには参加したいと思います。(日本短波クラブ 大武逞伯)

放送再開とのこと、まことにおめでとうございます。心がすっと軽く明るくなったようでした。放送に先立ちHCJBリスナーの集いがひらかれるそうですので、弊局の番組「シベリヤ銀河ステーション」でもリスナーのみなさんにご案内させていただきます。(ロシアの声 岡田和也)

帰国の際にはぜひお会いしたいと思っています。(須藤幹雄)

豪州大陸からの放送なのにアンデスというのも変な感じがいたしますが、復活することでそ

れもよいのではと思います。(坂田博行)

「アンデスの声」が再び放送されること大変楽しみです。ぜひ初回の放送を聞いてみたいとも思いますので、周波数と時間を早くしりたいですね。アマチュア無線の免許をうけて17年、自作の受信機からこんどはオールモードのHF機、周波数はデジタル表示でメモリーしておけば一発で呼びだせるので便利です。(鈴木宏侍)

オーストラリアから短波放送が定期的に送られることになったなんて、日本のおおくの同好者によろこばれていことでしょう。(吉枝隆邦)

日本語放送がHCJBオーストラリアから行われるとのこと!またいつかのように短波で「アンデスの声」がここ秋田でも聞けることを今から待ちのぞんでいます。(福田久隆)

淀橋教会でリスナーの集いがひらかれるのですね。「アンデスの声」なしでは福音にふれることも、教会に足を運ぶこともできない方たちがたくさんいらっしゃれるようにお祈りしています。(木藤和子)

待ちに待ったすばらしいお知らせを誠にありがとうございます。淀橋教会でのリスナー集会には出席させていただきます。ひさしぶりにお会いできることを楽しみにしております。それまでに申し上げたい意見などをまとめておきたいと考えています。(細谷正夫)

オーストラリアからまたHCJBが聞けるのだったら、ほんとうにうれしいことです。これは本当でしょうか。だったらすばらしいです。趣味の無線はやめていますが手元にはSONY ICF2001がまだあります。北九州での昼食会が楽しみです。(土谷信義)

その日はあいにく仕事ですが、大阪会場の「太閤園」は私が勤務している会社から近いのなんとか参加したいと思います。(影山敦久)

放送再開のニュースで「アンデスの声」で生きる力とよろこびを与えられた感動とよろこびがふたたびもどってきました。「祝!豪州より放送再開記念2005」をテーマに色紙絵を描いて参加者にさしあげたいと思います。(キムヨンイル)

前回のメールマガジンに対するこのような反響のメールを読みながら、私は「短波」を愛する人たちはひと味違うなと思われました。まず何があっても「短波」、何がなくても「短波」という意気込みが感じられるのです。それは決して単なる趣味とか、過去へのこだわりではなく、目がまわるほど革新と進歩をとげていくメディアのただなかでも「変わらないもの」に目をそそぎ、「なくてはならないもの」を大事にする識別力に恵まれているせいでしょうか。そこには一時的なものには動じないしたたかさもみられます。もっとも私もそのひとりのようですが。

さて今回の「リスナーの集い」では、皆様からこれから「短波」についてのご意見をおききしたいと思います。また再開される放送はアンデスからではなく豪州大陸からのアンデスとなり、これは「ナンデス」といわれそうなので、どうしたらしいのかその点もお知恵を拝借したいと願っています。さいわい HCJBオーストラリア局の責任者であるアダムス夫妻も来席されますので、この機会にひとりでも多くお出かけくださるようご招待いたします。

では当日各会場でお目にかかるのを楽しみにしながらお待ちしています。

HCJB日本語放送担当

在住 尾崎一夫 久子

【ホームページのご案内】

HCJB日本語放送のホームページ(<http://www.hcjb.org/japanese/>)には、リスナー・コミュニケーションのためのふれあいコーナー「フォーラム」(<http://www.hcjb.org/japanese/forums/>)と、メールマガジンのバックナンバーを揃えた「メールマガジン e-La Voz らいぶらり」(<http://www.hcjb.org/japanese/mmz/>)のページがあります。どうぞご利用ください。

このメールマガジンは、HCJB日本語放送の管理するメール・リストに登録されている方に無料でお送りしています。このメールマガジンをご覧になってのご感想やご意見、ご要望などは、[HCJB日本語放送](#)までお送りください。
また、このメールマガジンの配信停止、配信先変更、あるいは新規ご登録も[HCJB日本語放送](#)までメールにてお知らせください。なお、メール・リストは配信先メール・アドレスのみで管理されていますので、配信先変更をご希望の場合には、現在登録されている配信先も併せてお知らせください。

Copyright © 2005 by HCJB. All rights reserved.



日本語ホームページ: <http://www.hcjb.org/japanese/>

Eメール: kozaki@hcjb.org

郵便の宛先:

Mr. & Mrs. Kazuo Ozaki
1920 Berkshire Pl., Wheaton, IL 60187-8050, U. S. A.
